

# 町田地区保護司会だより

第101号

発行 町田地区保護司会  
会長 平本 章一  
編集 広報部  
TEL 042(794)6791



町田市大賀蘿絲館



## 地域コミュニティの核となる中学校を目指して

町田市公立中学校長会 会長  
町田市立南大谷中学校 校長 橋本 雅彦

町田地区保護司会の皆様方には、日ごろより町田市公立中学校的教育活動にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。本年7月に行われました「社会を明るくする運動」街頭活動におきましては、保護司会の皆様とともに各学校の生徒たちが積極的に各地区の街角に立って広報活動をする姿が見られました。公立中学校としても、今後とも活動の輪を広げていくことが大切であると考えております。

犯罪や非行のない、誰もが笑顔で過ごせる地域づくりは、地域に暮らす人たちの願いでもあります。そのためには、地域の中で活動している様々な機関・団体の皆様が一体となって子どもたちの成長を温かく見守ることが大切であると考えます。地域の中にある公立中学校的使命は、地域の各家庭から預かる子どもたちを、3年間の教育活動を通じてより良く成長させ、義務教育を完了させることにあります。子どもの成長を支えるためには、地域の様々な機関・団体の皆様からの支援が不可欠

です。公立中学校は、地域の機関・団体の橋渡し役となり、地域のコミュニティの核となる役割を果たす責務があると考えます。コミュニティの形成・活性化への取り組みという視点からも、保護司会の皆様との連携をさらに深めてまいりたいと思います。

保護司会の皆様には、今まで多くの子どもたちの非行からの立ち直りにお力を發揮していただいております。また、薬物乱用防止教室の開催や子どもたちの健全育成のための個別訪問などに多大なご支援をいただいております。中学校校長会として改めて深く感謝申し上げます。保護司の方々の子どもたちへの絶え間ない温かいまなざしが、地域を落ち着いたものにし、子どもたちが毎日通う中学校生活を穏やかなものにさせているのだと思います。町田市の公立中学校では、保護司会との連携のもと、子どもたちのさらなる健やかな成長を図っていきたいと願っております。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 第66回 「社会を明るくする運動」 —町田大会・記念講演会—

7月29日、町田市民ホールにおいて369名の参加者を迎えた実施されました。

大会宣言は町田地区保護司会会长で「社会を明るくする運動」推進委員会副会長の平本璋一が行い、続いて副市長高橋豊が挨拶をしました。さらに、佐藤市議会議長、村木立川支部長からも祝辞を頂き、坂本教育長、町田警察署生活安全課・荒井課長、南大沢署生活安全課・児玉課長代理、藤井主任保護観察官が来賓として紹介されました。



その後、第65回「社会を明るくする運動」東京都推進委員会作文コンテストにおいて佳作を受賞した鬼澤友萌さん（市立つくし野中学校）の「寄りそう人がいれば…」、石橋光穂さん（市立小山田中学校）の「犯罪ではなくとも…」の作品朗読がありました。

総合司会は推進委員会委員の杉浦英徳が務めました。

記念講演は公立小学校で23年間教師を務め、その経験から教育評論家に転じた親野智可等氏が「子どもを伸ばしたい！そのとき大人にできること～学校・家庭・地域で子どもを伸ばすには～」と題して行いました。

同氏は、教育現場に立つ中で得た経験や知識を子育てにも役立ててもらいたいとの思いで『親力で決まる子どもの将来』などこれまでに多数の著書を執筆しているほか、全国各地のPTAや市町村の教育講演活動に取り組んでいらっしゃいます。

講演に先立ち、講演内容のポイント「目をつむ



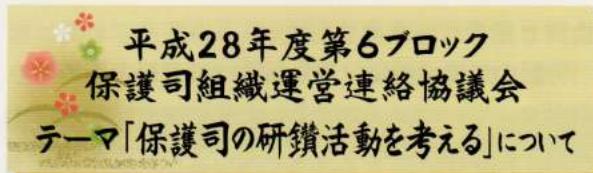
る勇気」「ほめるコツ、それは自分をほめること」等、子どもを伸ばすうえで大切にしたいことが記された資料を配っていただいたこともあり、非常にわかり易く聞くことが出来ました。講師の声は大きく、その口調からは熱いものが伝わってきました。内容は具体的で、更生保護に携わる者にとって多くのヒントや知恵をいただけるものでした。

講演が終わると浅沼委員が花束を贈り、盛会のうちに幕が下りました。（地活部 高野 昌憲）



### 参加者の感想

- \*「中学生お二人の作文朗読がとても良かった。(多くの参加者から言われた)今後も続けてほしい」
- \*「記念講演の親野先生のお話がわかりやすいけれどなく、パンフレットを頂き、耳だけでなく文章として残り参考になる良い講演でした」
- \*「子どもに対する接し方が必要だという講演でした。ぜひ現役の親御さんに聞いて頂きたいと思いました。子どもに係わる活動をしている私達にとってとても参考になりました。子どもとはいえ一人の人格を持つ人であると心得ました」



去る10月19日、平成28年度第6ブロック保護司組織運営連絡協議会が開催当番地区である西多摩地区保護司会により羽村市産業福祉センターに於いて開催されました。今年度の共通テーマは、保護司信条に「常に研鑽に励み、人格見識の向上に努めます。」とあるように「保護司の研鑽活動を考える」とされています。

開催日当日は天候に恵まれ全員でマイクロバスにて現地へ向かいました。

午後1時30分、竹内西多摩地区保護司会長の開会の挨拶に始まり協議会が開催されました。始めに幸島東京保護観察所長、永見東京都保護司連合会長の挨拶、続いて喜入統轄保護観察官より趣旨説明がありました。細田西多摩地区保護司会副会長が座長に就き全体協議に移りました。

各地区より工夫を凝らした数多くの研鑽活動を行っている様子の報告があり活発な質疑応答がなされ、当地区の各協議委員も今後の活動に役立てるべく熱心に協議に参加いたしました。

当地区的意見発表では「研修部による施設参観」「定例研修の出席率の高さ」「森のたより」「談話室」について質問があり、研修、総務それぞれの協議委員より説明がなされました。



会議終了にあたり幸島東京保護観察所長、村木東京保護観察所立川支部長より大変素晴らしい意見報告会であったことと「保護司は研鑽に始まり、研鑽に終わる」「知識（研鑽）がなければ知恵もひらめきも生まれない。まずは他地区のいいところ取りでそれぞれの保護司会でアクションを起こして欲しい」との話がありました。

続いて東京都保護司連合会長、副会長、事務局長、多摩地区保護司連絡協議会長の講評があり、次年度開催地区、内田八王子地区保護司会長の挨拶に続き、最後に斎藤西多摩地区保護司会副会長の挨拶で閉会となりました。

その後「ゆとりぎ」レセプションホールへ移動し懇親会が開催され参加者相互の親睦がはかられ盛会裡に終了いたしました。

（総務部 鈴木 幸夫）

## SST研修会

9月12日に「人との関わり方の技能を高めるためのSSTの体験」が行われました。沢山の応募の中、多摩地区では町田だけが選出され、今回の研修会となりました。SST普及協会認定講師の八木原律子先生の他、3名の先生方の指導の基に、58名の参加者を得て教育センターにて行われました。

講師自己紹介、受講者同士の自己紹介から講義が始まりました。①SSTの基本を理解する ②面接に役立つ基本モデルの理解と演習 ③問題解決法の理解と演習が主な内容で、6人ほどのグループに分かれて体験実習が行われました。問題解決技術訓練法のワークシート（本人に解決方法を判断させる）を使った演習では、「お金を貸してくれと言わされたら」「不良仲間の誘いを断るには」等のテーマについて解決策、長所、短所を書き出し、実行しやすい解決策を選んで実際にやってみました。これらは多いに参考になり、保護司の仕事の特徴から、個人面接の場面にこれから役に立ってくるだろうと感じました。

SST = Social Skills Training

日本語では、社会生活技能訓練と呼ばれる。社会生活の中でうまく人と関わり、より良い人間関係をつくる技術を身につけることを目的に行われている練習方法です。 （研修部 加藤 俊夫）



## 鶴川分区

## 鶴川地区地域懇談会

平成28年11月8日、鶴川分区第24回鶴川地区地域懇談会が行われました。

第1回は平成5年に、情報交換と懇談会が行われ、参加者は47名程でした。その後400名を超えるときもありましたが、近頃では200名前後になっています。毎年各学校、PTA、町内会、民生委員、地区委員会、その外地区の委員さんに協力をいただいて行われています。

内容としては、講演とグループ懇談をしたり作文の朗読や広報ビデオなどです。少し変わったところでは玉川大学の白山明秀氏（学術研究所 心の教育センター）の講演は、参加者が次々に自己紹介しあう全員参加の体験型の形態がとられました。



鶴川分区の保護司と各学校、町内会、協力をいただいている委員さんと集まり、毎年どの様なことをするか、検討しています。

これからも鶴川地区の青少年健全育成のため「家庭、学校、地域」の皆様方の少しでも役に立てばと願っています。

（鶴川分区 小宮 長治）

## 堺分区

## イベントで地域広報活動

相原町の相原中央公園で10月9日に行われた相原地区連合町内会主催の「相原ふれあいフェスティバル」に今年も参加し、堺分区としての広報活動を行いました。

当日は連日の雨で開催も危ぶまれたのですが、午前中で雨も上がり、9438名と多くの来場者で賑わいました。沢山のフリーマーケットや模擬店、体験コーナーでは竹細工に丸太切り、消防車、警察、自衛隊車両の展示や乗車体験もあり、一日中多くの子どもたちが目を輝かせて楽しんでいました。ステージでは日頃の練習の成果を発表する小学生や団体、サークルの出演が会場を沸かせ、大きな

歓声と拍手に包まれました。

分区の広報活動は、更生保護への理解を深めていただくよう、パンフレット、クリアファイル、ボールペンや五穀米を配布しました。今年はスタンプライナーにも参加し、スタンプを集める子どもや家族連れなど大勢が保護司会ブースを訪れました。



相原地区最大のイベントは今年で13回目を迎え、地域住民の出会いやふれあいの場として欠かすことのできない催しとなっています。小さい子どもからお年寄りまで幅広い年代の人々がふれあうことでの交流が生まれ地域の絆も深まり、非行や犯罪の抑止につながるのではないかと感じました。

（堺分区 吉川 達也）

## 町田分区

## 秋の子どもまつり



今年で30回を迎えた玉川学園地域の「秋の子どもまつり」に、本年も町田地区保護司会町田分区として参加し、刑務作業製品の展示等を行い、更生保護活動の啓発に努めきました。

天候にも恵まれた町田第五小学校の校庭では、約20の団体等が出店や遊びを提供し、多くの来場者で賑わっていました。そこでは、少子化であることがにわかに信じられないくらい子どもたちの笑顔が溢れ、自然と大人たちの表情も緩みます。

そんななか、長机1本の保護司会ブースには、足を止めて製品をご覧になる方々がちらほらと。製品のカタログを見ながら当該品を通じ更生保護に興味関心を示すお父さん、毎年固形洗剤を購入してくださるお母さん、「ご苦労さま」と声をかけてくださるご婦人など、短時間ではありませんが更生保

分区  
だ  
よ  
り

護に関する話題を地域の方々と共有する貴重な機会を得ることができました。（町田分区 市村 善明）



原町田地区協議会主催の原町田ふれあい祭りが町田第二小学校を会場に実施されました。各町内会・自治会・子ども会・学校・幼稚園・保育園他関係団体が「昔の子どもと今の子どもも輪になって遊ぼう」をテーマに出店。当日は雨模様だったが体育館にて実施されました。私達町田分区も町田市青少年健全育成原町田地区委員会の構成団体として保護司会のミニパンフレットと「社明」のウェットティッシュを配布し、飲料も来場者に提供しました。

小学生をはじめ、保護者同伴の未就学児童が訪れ各種ゲームに真剣に取り組んでいました。地域の方々提供のカレーライスも好評でした。射的・ボール投げ・パターゴルフ・フェイスペイント等は行列が出来ました。舞台上では地域の子どもたちによる「はらまち太鼓」、町田第二小学校3・4年生の「エイサー」、町田第二中学生によるプラスバンドの演奏が行われ大盛況でした。

子どもたちの明るい笑顔と元気に、参加団体側も老若男女活気にあふれた和気藹々の中終了しました。

（町田分区 橋田 恵子）



7月24日、更生保護施設鶴舞会で開催された「余暇の過ごし方」と題して篤志家による講演が行われました。

豊かな登山経験をもとに山の厳しさ、楽しさ、更に「山に出会ったことで、自身の生活や考え方には大きな影響を与えてくれた」と熱く語られました。当分区から会員10人が参加し、講演を拝聴後、テーマである「余暇の過ごし方」について、対象者と約50分間の話し合いを行いました。

対象者の多くは、余暇時間は、仕事の疲れを取るために、出来るだけ体を休めるようにしている。また現

在は自立を目指しているので、趣味等を楽しむ余裕がない、等の意見が出されました。



9月18日開催の「そば打ち学習会」及び「芋煮会」に平本会長はじめ、当分区会員10人が参加しました。諸準備は早朝から進められ、対象者に「そば打ち」を披露しました。腕に縫りを掛けた「山形風芋煮」と共に振る舞い、それぞれに温かい家庭の味と父母の思いを届けました。

（南分区 松沢 明治）



10月27日、川越散策と川越少年刑務所の視察研修を24名の参加で行いました。

最初に刑務所内を見学。所内には理容室があり職業訓練で2年間技術を習得した2人が働いていました。施設ではCAD技術、自動車整備、溶接などの職業訓練が行われていました。健康管理として運動場で運動を1日30分するとのことで、元気で走っている姿がありました。夏は地下水を使ってプールができるそうです。理容と車検は地域の人も利用しているとの事です。

施設内見学の後、ビデオを見ながら入所から釈放までの矯正処遇の説明や1日の生活が紹介されました。この施設の処遇対象者は原則として26才未満で、犯罪の進んでいない刑期10年未満の男子受刑者での、いわば「青少年刑務所」です。収容定員は1511名で現在は957名が生活しています。職業訓練、改善指導、教科指導をきちんと受けて出所する時には就職先が決まっているよう1日1日を頑張ってこれから的人生を有意義に過ごしてほしいと思いました。予定より遅くなった為、川越散策は次の機会にと帰路につきました。桐友会の方、他の分区の方にも参加していただき交流が出来、実りの多い研修になりました。（南分区 吉田 廣子）



## 忠生分区

## 薬物乱用防止教室

6月17日、市立山崎中学校において、忠生分区主催の薬物乱用防止教室を開催いたしました。

講師を一般社団法人横浜市薬剤師会学校薬剤師部会副会長の山崎 健氏にお願いし「抱えている荷物は何ですか」をテーマに講話をいただきました。



分区だより

まずははじめに、風邪薬等の飲み方について色々な飲料水で実験を行い、生徒にもいろいろ質問をし、笑いを入れながら本題に入りました。主な講話は脳と薬物・酒・タバコの関係についてでした。お酒やタバコも薬物の仲間であること、子どもの飲酒が健康を害し、脳の正常な発達をとめてしまうことや、タバコも子どもが受けるからだへの影響が大きく、病気になりやすいと話され、生徒全員が熱心にお話を拝聴していました。

講話は1時間と短かかったが、終了後講師、先生、保護者、地域の関係者、保護司と意見交換が行われました。そのなかで保護者より「薬物乱用防止教室の名称であると暗いイメージがあり、保護者の出席者が少なかった。また今回の講話は率直に聞くことができ大変良かった」との意見もあり、今後は保護者にも積極的に参加できる名称を考える必要があると感じました。(忠生分区 坂倉 優)

## 研修の日々

## 多摩少年院大運動会を見学して

町田地区更生保護協力事業主会副会長 内藤 征宣

平成28年10月23日朝晩少し寒くなつきましたが、当日はスポーツ日和で気持ちの良い朝でした。多摩丘陵の自然に恵まれたすばらしいこの里で日ごろ集団生活を通して、自分を見つめ仲間と協力しながら歩み、いずれ訪れる出院を目指に頑張っている寮生の目が輝いています。

ふもとに響くような大きな声で、選手宣誓が始まり、第一学寮から第五学寮に分かれて白、緑、青、赤、黄の五班による対抗戦です。スローガンは「僕らの色で伝えよう言葉で言えない大切な気持ち」で、このグラウンドに整列しているアスリートは皆、ポジティブな取り組みをしています。ある種目の中で保護者と選手の共同競技があり、お互いに協力してポールに向かい、帰りはお母さんをおんぶして席に戻る両者の姿にとても熱いものを感じました。

玉入れは私たち協力会のメンバーに参加のお誘いを頂き、細野会長始め何人かが良い汗を流しました。最後の各寮の対抗リレーのあと閉会の選手代表のお礼と「最後までご参加ありがとうございます」の挨拶も非常に心に残りました。

この選手の皆さんには、当院で磨かれたダイヤモンドの原石の粒でこれから就学、就労の現場でさらに研磨され自らの光を持って欲しいです。

## 関東地方保護司代表者協議会に参加して

10月12日～13日 於：埼玉ブリランテ武藏野

関東地方更生保護委員会主催の会議に1都10県から172名の地区会代表が集まりました。

主催者挨拶に始まりNPO法人RosyBell理事長大沼えり子氏の講演「たったひとつの笑顔のために」を拝聴しました。子どもは愛されて生きてほしいとの熱い思いから、引受人の居ない少年に家を提供、社会復帰を目指す女性ならではの視点と行動力に敬服しました。



続いての分科会テーマ「保護司活動（保護観察や環境調整等）の充実に向けたネットワークを構築し、効率的運用を図るため配慮すべき事項について」。保護司会以外の団体との連携や保護司同士と、捉え方は様々です。印象に残った発表は、諫訪地区会の福祉事務所、社協、職安、児相、警察、更女との協議会を立ち上げ、各々の機関が互いの活動を理解し接点を学ぶという活動でした。また、足利地区会はSCで共犯対象者を持つ保護司の会議や経験年数で縦割りにしたグループでの処遇会議のあり方が参考になりました。

次の日は、関東更生保護委員会事務局長（元立川支部長）古田康輔氏の講話「地域と更生保護の関係を考える」で、福島自立更生保護センター立ち上げまでのNot in my back yard（私の裏庭ではやめてくれ）を話され、官と民の橋渡しを期待するとの事でした。続いて全体会で、前日の分科会報告があり、終了しました。

様々な地域色あふれる中、活躍されている保護司にエールです。（町田分区長 春山 幸子）

### 中央研修会に参加して

平成28年9月29日、保護司等中央研修会に参加しました。会場の日経ホールには全国から参加した460名の保護司・更生保護法人役職員で満席でした。

内容は「薬物の乱用・依存・中毒の理解と薬物依存症者の回復支援」という講演でした。

まず、乱用・中毒の違いから講演は始まりました。

依存には身体的依存と精神的依存があり、使えないと思えば我慢できるが、使えると思うと直ぐに手が出るものである。

依存に陥りやすい人は自己評価が低く、自信が持てない・人を信じられない・本音が言えず、孤独感が大きい等の特徴がある。

そこで、私たちは一人で抱え込まない、普通の人として接し、自尊感情を傷つけず、明るい安心できる場を提供し、信頼関係を築き、自立を促しながら長い目で回復を見守ることが大切である。

今は認知行動治療が登場している。社会資源を活用し5～6人で話し合いをさせるなど外来でやっている、という講演内容でした。

2時間近くの講演でしたが、造詣ある講師の熱意ある話で保護司としての対応が良く分かる内容でした。（更生保護女性会会长 若林 文子）

#### 保護司特別研修

### 「社会貢献活動について」に参加して

10月19日、東京保護観察所集団処遇室において、各地区担当保護司2名の出席を求められ、町田地区より高野さんと出席しました。

講義は日本福祉大学教授・村上徹也先生の自己紹介はじめり、①社会貢献活動と学習を結びつける「サービスラーニング」の重要性、②「社会貢献活動」から何を得るか、③「社会貢献活動」の効果を高める要素等を話されました。特にリフレッシュとは適切な問い合わせを投げかけ、考えさせ、話し合い、文字にすることであるとの話は私たちの処遇に役立つことと思いました。

その後10グループに分かれて「処遇効果を高め

るために」を話し合いました。

約半数の地区での実施で、そのうちの一部、渋谷区の30年間駅前清掃活動、杉並地区での社会福祉デイケアーサービスのお手伝い、その他花壇の手入れ、書道教室のお手伝い等の発表がありました。

町田地区では社会貢献活動の活動場所がありますが、任意の「社会参加活動」をしているので良い勉強になりました。（忠生分区長 原 雄三）



### 福島自立更生促進センター訪問

今年度の管外研修は28名の参加を得て、11月10日～11日に福島自立更生促進センターの見学と真っ盛りな秋を散策しました。

福島自立更生促進センターでは福島保護観察所長南元英夫氏（前東京保護観察所立川支部長）より設置の経過や6年間の取り組みを伺いました。

自立更生促進センターは円滑な社会復帰に必要な環境を整えることが出来ない矯正施設出所者などを対象に、保護観察所に併設した施設に宿泊させながら、濃密な指導監督や充実した就労支援を行い、再犯防止と自立を図ることを目的に、福島県福島市（平成21年6月開所）と福岡県北九州市（平成21年6月開所）で設置・運営されています。

施設見学の後、木下裕志統括保護監察官から入所者に対する処遇の概要を説明いただきました。

基本的には3ヶ月の入所期間で、社会復帰がスムーズに出来るよう生活指導を行うほか、再犯防止プログラムに実施や協力雇用主と連携した就労支援を実施しています。また、第三者機関として「運営連絡会議」を定期的に開催しており、地域の理解と協力も欠かせないとのことでした。



自立更生センターの前には、緑のシートに覆われた汚染土壌と避難者の仮設住宅があり、震災からの復興が道半ばであることも実感しました。

（研修部 村上 正博）

## 退任のごあいさつ

町田分区  
小野 敏明

出会いに感謝

平成16年12月22日保護司の委嘱を受け、町田分区に配属されました。12年間でしたが皆様方に支えられ、任務を全うすることができました。特に、対象者とは、報告、連絡、相談を大切にし、信頼関係を築く努力をしました。また、組織内の活動では、主として広報部に属し貴重な体験をさせて頂きました。ご好意に心より感謝申し上げ、当会の発展と皆様方のご健康を祈念しております。

堺分区  
近藤 幸

広葉樹の葉が少しづつ色づき、秋の風景を描いています。8月末日で16年間の保護司生活を卒業いたしました。この間、広報部、総務部を経験、サポートセンターには準備段階から関わることが出来、他分区の皆さんと交流を持つことが出来ました。

いつも笑顔で支えて頂きました皆様方に心より感謝申し上げます。有り難うございました。

会の更なる発展をお祈り申し上げます。

## 新任のごあいさつ

堺分区  
青木 仁

本年9月1日に保護司を委嘱され、町田保護区に配属されました。私へ「保護司に」とのお話を頂いたのは、父が保護司を務めていたこと、私の小・中学校PTA活動や健全育成等の地域活動が、お説教の切掛ではないかと考えております。

先輩保護司の皆様方のご指導・ご鞭撻を賜り、自己研鑽に励み、精一杯努めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

## 広報誌からよむ社明活動町田大会のあゆみ

昭和57年、町田保護司会発足当初の第32回社明町田大会は「中学生の主張」(2会場)から始まりました。第34回には5地区5会場に広がり、8回の主張を経て、第40~42回は、高校生参加の「少年の主張」へ拡大。第43回より分散開催を見直し、運動の力を結集するため、中央会場で統一された行事を催すことになりました。現行の記念講演です。お招きした講師の先生方のメッセージから、当時の社会情勢を読み取れるのではないかでしょうか?

- \*永六輔氏「犯罪のない明るい社会を築く。  
一ボランティア活動は国際社会に及ぼす必要がある。」
- \*中村メイコ氏「私の生き方—思いやりの心」
- \*浜美枝氏
- \*北神親方「継続は力なり—母親の大きな愛」
- \*キャシー中島氏「キャシー中島の生活提案」
- \*平野レミ氏「私のとっておきメニュー」
- \*増田明美氏「スポーツに心弾ませて」
- \*見城美枝子氏「親と子のパートナーシップ」
- \*山田パンダ氏「子どもの元気な姿は大人の姿勢にある」
- \*牟田悌三氏「人生って支えあいっこ」
- \*吉村英夫氏(三重大学講師)「親と子の絆を求めて」
- \*早野宏史氏(サッカー解説者)「青少年とサッカー」
- \*水谷修氏(夜回り先生)「さらば哀しみの青春—子どもが悪いのではない!家庭や社会に問題がある」
- \*樋口恵子氏「一人ひとりの可能性、地域の可能性—人生百年一人ひとりが暗さを嘆くより1本のろうそくを灯す社会、希望と見守りを」

- \*梅原司平氏「愛ある街で」
- \*宮城まり子氏「どうすりやいいのー小さな子どもに対して人として尊重し、大切に向き合い、決して投げ出さない」
- \*桂才賀氏「少年院の子ども達からのメッセージ」
- \*千葉紘子氏(歌手)「人がいてぬくもりがあってー親に愛されたいと強く望んでいる」
- \*伊藤幸氏「こんな俺でも生きていてよかった。元暴走族組長の立ち直り—きっかけさえあればたちなおれる」
- \*佐々木正美氏(精神科医)「親が大切に伝えるべきこと~人を信じること~自分を信じること」
- \*辛島美智子氏(子育てアドバイザー)「子ども達の未来、共に考えてみませんか」
- \*北芝健氏「犯罪のない明るい社会にむけて」
- \*宮田美恵子氏(日本子ども安全教育総合研究所理事長)「地域で育む子どもの安全—地域で子どもを見守る大切さ、どんな場所でも起こり得る犯罪」
- \*親野智可等氏「その時大人に出来ること」

## 編集後記

会の歩みを記録する大切な100号発刊。ホッとしていた頃、リオパラリンピック参加者のすがすがしいコメント。同時期の相模原での残虐な事件には耳を塞ぎたくなりました。秋があつという間に過ぎ去つて平成28年歳末、夏から秋、催事の多い中、ご寄稿有り難うございました。(青柳・さつき)